



きっずる一むだより

第 36 号

令和 5 年 10 月 10 日発行

社会福祉法人ゆうゆう

きっずる一む県庁別館

10 月になり、日中もようやく過ごしやすくなってきました。先日、庁内の庭へお散歩に出かけると赤や茶色の落ち葉がたくさん！ 子ども達はその中を歩き、カサカサした音や感触を味わっていました。またどんぐりもたくさん落ちていて、子ども達は夢中で拾っていました。葉っぱや木の実などの自然物に触れているときの子ども達は本当にイキイキしていて、改めて自然豊かな環境が身近にあることの幸せを感じました。次は舞鶴城公園にも足を伸ばしてみようと思います。



ごっこ遊び



Aくん(4歳1か月)とBくん(3歳7か月)は、忍者ごっこに夢中です。左の写真はAくんが手裏剣と剣を持ってポーズ！ 忍者姿がなかなか決まっています。右の写真はそれぞれ忍者屋敷のイメージを言いながら作っているところです。

AくんとBくんの姿から見る発達

おおむね2歳ごろからは周囲の大人の行動や言葉に興味を持ち、真似をする姿が見られてきます。

3～4歳ごろになると真似をしようとする中で、これには自分には難しい…でもやってみたい！という気持ちが対象の相手に対しての“憧れ”に繋がっていきます。

A君とB君にとっての“憧れ”は忍者。

「手裏剣を作りたい！」「忍者屋敷を作りたい！」とイメージを伝えあい、想像を膨らませながら遊んでいました。時には役割や設定など友達と意見が食い違ってしまいうこともありますが、コミュニケーションをとって行く中で協調性が育まれていきます。

そしてこの姿が5歳ごろに見られる、友達同士で同じ目的に向かって話し合う姿へと繋がっていきます。

きっずる一むでは子どもたちのイメージや憧れを形にできるような関りや、子ども同士の関りを大切にしながら過ごしていきたいと思っています。

きっずる一むに来る子ども達は毎日顔ぶれが異なりますが、子ども達にとって友達と一緒に過ごす時間は何より嬉しいようです。友達が来所するとすぐに入り口まで行ってお出迎えしたり、手を伸ばしタッチを求めたりしています。まるで“一緒に遊ぼうよ。”と誘っているようです。それが今では月齢の小さいお友達にも広がり、私達職員も嬉しい気持ちでいっぱいです。

